

独立宣言（1996年）

1. いのちを支える「食」だから、安全性を第一に考えよう。
2. つくる人と食べる人がお互いに力をあわせてよいものをつくりだしていこう。
3. 地場産直を大切にしよう。旬を大切にしよう。
4. 組合員の意見が商品や運営に生かせる生協にしよう。
5. 協同することを大切にしよう。「正直に生きる」「正しく生きる」そうした生き方を生協を通じて大切に、行動で示せる大人になろう。

地域自給宣言（2000年）（一部抜粋）

安心のくらしと、人のつながりを回復させるために手づくりを大切に家族とのあり様を大切にしつつ、地域に産地に踏み出そう。地域でくらす、人、土、水、空気、そして多様な生物の営みを身体に感じ、共生しよう。

「協同」の精神を高く掲げ、ここでくらす人々が心豊かに共に生きてゆける地域をつくろう。

「食はローカル」・・・地域の自然と人の営みの中から生み出されるもの。

原点に立ち返り、地域の仲間とともに、生産者とともに、じっくりはじめるスタートの年にしよう。

【常総生協40年のあゆみ】

- 【創設期】.....
- 1975年 取手市井野団地自治会の「朝市」から「取手生協」設立。
 - 1976年 守谷町に移転。「常総生協」に名称変更。合成洗剤追放運動。
 - 1977年 首都圏生協事業連絡会結成に参加。
- 【生協の事業連帯期】.....
- 1987年 県域を越えた生協事業連帯「北関東協同センター」に参加。バブル期へ。
 - 1995年 食の偽装事件。生協の合併・吸収・巨大化の動きをめぐる混乱
- 【食の安全・正直な運営をとりもどすために独立事業へ】
- 1996年 北関東協同センター脱退。独立事業開始。「独立宣言～食はいのち」。商品仕分業務を地元会社に委託。遺伝子組み換え食品輸入許可反対運動。
 - 1999年 東海村JCO臨界事故に直面、エネルギー政策の転換を決議。
 - 2000年 総代会にて「地域自給宣言」。千葉に転居された組合員で生協づくりの活動。
 - 2001年 菜の花プロジェクト、味噌用大豆地場契約栽培開始。
- 【経営基盤再建期】食のグローバル化進行.....
- 2002年 バブル期の負債を一括計上し「経営再生10年計画」。中期計画「常総生協のめざすもの」。常総生協の「食生活指針」（主食6割、おかずを減らそう）。
 - 2003年 モンサント社による谷和原村（現つくばみらい市）での遺伝子組み換え大豆栽培に抗議、すき込み行動。遺伝子組み換え反対全国緊急集会主催。
 - 2004年 「ものづくり、人づくり、地域づくり」宣言。
 - 2005年 契約大豆の不作を受けて「大豆基金」創設。大豆備蓄を開始。
 - 2006年 店舗事業の縮小・撤退。
 - 2008年 茨城県有機農業推進フォーラム結成。生協法改正（区域制限緩和）
 - 2009年 定款変更で活動エリアが千葉県東葛地域に拡大し、共同購入会合流。
 - 2010年 日本有機農業研究会に団体加盟、有機農業推進へ。ネオニコチノイド農薬問題集会、TPP反対キャンペーン。
- 【震災・放射能汚染の当事者に／困難期】.....
- 2011年 東日本大震災、東京電力福島第一原発事故。総代会にて「脱原発」決議。放射能検査体制整備。脱原発とくらし見直し委員会発足。福島の子に和綿のふとんを贈る活動。TPPに反対しJA茨城と共に国会前座り込み。過去の累積欠損解消。
 - 2012年 東海第2原発運転差止訴訟呼びかけ原告団結成して提訴。被ばく健康影響への懸念から生協内子ども基金発足。脱原発くらし見直し委員会活動。事業は低迷。
 - 2013年 配達料・基本料導入。「くらし見直し」提案。関東子ども健康調査支援基金設立、甲状腺検診開始。
 - 2014年 商品仕分業務委託会社が都合により撤退。仕分配送センター倉庫賃料を考え合わせ、総代会にて本部建て替えとあわせて配送センター建設を決定。
- 【再出発】.....
- 2015年 注文システム改革。新本部・配送センター完成。次期10年中期計画の討議。40周年記念行事。

次の10年へ

新しい10年に向けて さあごいっしょに！

2015年春 組合員・生産者・職員 一斉討議資料

次期10年『中期計画』の提案



次の10年の目標をみんなの討議で

2015年は常総生協が地域とともに歩んで40周年を迎えます。間もなくわたしたちの新しい活動の拠点になる守谷駅前の本部・配送センターも完成します。

来たる6月13日開催の常総生協第42回通常総代会で、次期10年の中期計画について討議します。

2011年あの絶望の年から、再度この地からくらしを立て直し、社会を変える核になりたいと思います。どうか多様な意見をお寄せ下さい。

別紙アンケート〆切 4/24（金）まで

2015年第42回総代会は6月13日（土）「新本部・組合員室」で開催します。



新本部2F「組合員室」。間もなく椅子・テーブルが入ります

【「中期計画」とは】

- ・自分たちを見失わずに心ひとつにしてゆくために「みんなで志すこと、目標にすること」を確認してゆくものです。
- ・「食はいのち」「ものづくり、ひとづくり、地域づくり」をビジョンにしてきました。また転機や危機に直面する度に「独立宣言」や「地域自給宣言」、「脱原発宣言」などを確認しあってきました。

- ・原発事故という歴史事件の災禍を受けながらも、これまでの組合員資産の蓄積を元に、活動・事業拠点となる新しい本部・配送センター建て替えができました。
- ・次の10年の新しい歩みを始めるにあたり、わたしたち常総生協の将来像を組合員・生産者・職員みんなで作り上げ、心ひとつにしてチャレンジしてゆくものになりたいと思います。

ものづくり
人づくり
地域づくり

食はいのち

【理念】大切にすること

食はいのち

【ビジョン】協同をつむいで

ものづくり 人づくり 地域づくり



● 2025年までの10年間の「中期計画」の骨子を提案します。6月総代会に向けて組合員・生産者・職員の検討・意見をよろしくお願ひいたします。

この地に協同組合をつくって40年。3世代同居の組合になりました。時代も大きく変わりました。

21世紀前半を生きる、わたしたちはどのような暮らし方をしてゆくか・・・次の10年に向けたわたしたち常総生協の新しい姿（2015－2025）

食はいのちだから・・・自給・節理・食卓・文化を

健康で経済的な食・食卓の事業と活動をすすめます。

- ①基礎食糧・食材は地域での自給をめざし目標を定めます。
- ②自然の営みの中で無理のない手法でつくられた食材であることとします。
- ③組合員の食卓で実践されている経済的やりくりの工夫を共有できる広報事業をすすめます。
- ④日本特有の食文化、滋味や道具を大切にしてください。

(1)	◎	○	△	×
	大賛成	賛成	わからない	反対
①				
②				
③				
④				

※ご意見はアンケートに

生産と消費・・・共に作り、育て、わかちあう関係に

「産直・顔の見える関係」から「共に作り・育てる」関係へ

確かな食の安心とつながりに向けて「共に作り・育てる」あらたな協同のありかたを模索します。

- ①共同自給農園づくり、生産支援基金等で多様な提携方法を模索します。
- ②「生産・消費協同組合」づくりへの調査・準備をすすめます。

(2)	◎	○	△	×
	大賛成	賛成	わからない	反対
①				
②				

※ご意見はアンケートに

暮らし方・考え方・・・学びあい・交流からくらしを取りもどす

くらし方を変えるため、学び合い・交流を組合事業の柱に

- ①組合員間の交流で、健康で経済的なくらしの学びあい、知恵の交流、情報の交換を組合事業の柱にします。
- ②世代間の交流、伝承、相互啓発できることを催しの目的に含めます。
- ③地域の多くの人たちに伝え、広めるために「市民公開講座」を開始します。

(3)	◎	○	△	×
	大賛成	賛成	わからない	反対
①				
②				
③				

※ご意見はアンケートに

自然・環境・平和・・・いのちの基礎を大切にします

いのちを大切に社会へ努力します

- ①「有機農業」を推進し、森一里一海の連携した流域地域自給をめざします。
- ②核と原子力のない社会づくりに努力します（原発・核兵器をなくす活動で全国の人たちと連帯します）。
- ③原発事故による私たちが子・地域の子・福島の子たちの健康を見守る活動、支援活動をすすめます（健康調査の継続、保養等の支援協力）。
- ④戦争・紛争への動きに反対し、平和をつくる努力をします。

(4)	◎	○	△	×
	大賛成	賛成	わからない	反対
①				
②				
③				
④				

※ご意見はアンケートに

協同のしごと・・・みんなで生み出してゆきます

協同のしごとづくりをすすめます

- ①生協が持つ“ひと”と“つながり”を生かして、お弁当づくり・カフェ・食堂、綿づくりと加工（綿繰り・糸繰り・製品化）、健康・介護・教育など、協同のしごとをつくり出してゆきます。
- ②生協の運営や業務の一部を担う「組合員スタッフ」を募ります。
- ③協同のしごとの価値を生協内部通貨で交換できるしくみづくりを始めます。

(5)	◎	○	△	×
	大賛成	賛成	わからない	反対
①				
②				
③				

※ご意見はアンケートに

地域へのひろがり・・・地域に協同の輪を広げます

地域の人々との協同の輪を広げます

- ①地域の人々と連携して放射能汚染や農薬汚染を監視しながら、生活環境・農地・森川湖海環境改善、健康保護をすすめます。
- ②より多くの市民に安心・安全な食材を提供できる場（朝市広場など）や、健康づくり、くらし交流、たすけあいの場を広げてゆきます。
- ③楽しく生き生き協同している姿を見せることで地域に輪を広げましょう。

(6)	◎	○	△	×
	大賛成	賛成	わからない	反対
①				
②				
③				

※ご意見はアンケートに

運営・参画・・・できるときに、できることを

多様なかかわりによる新しい協同組合のしくみづくりを

- ①特技や時間を生かして、できる時に、できる人が、できる事で一緒にすることで大きな力になります。新しい時代の協同のあり方をさぐります。
- ②生産者、職員集団も生協の正式な構成員として運営に参画できるしくみを検討します。
- ③三位一体の運営の中で「職員」のみなさんの役割は大変重要になっています。労働条件、教育研修、多様な働き方について改革をすすめます。

(7)	◎	○	△	×
	大賛成	賛成	わからない	反対
①				
②				
③				

※ご意見はアンケートに

【どんな手順ですすめるの？】

- ・ 昨秋頂いた「40周年を迎えて－みんなのひとことメッセージ」を元に、今回理事会案を検討しました。
- ・ このアンケートで、理事会案をたたき台に組合員・生産者・職員の討議・検討に付き、修正意見、補強意見、わからない点や疑問点を出して頂きます
- ・ 協力・提携する外部からのご意見もお聞きします。
- ・ 6月の総代会に意見を寄せます。
- ・ 意見をもとに総代会で討議して確認します。
- ・ 確認されたテーマ別に組合員・生産者・職員・協力者に集まって頂き、その具体化のためのプロジェクトを発足させます。
- ・ 10月に予定されている40周年記念で発表します。